

昭和四年三月二十日(日) 於湧津小学校  
分四十九会 リすみ会

鈴木佑治先生御敬禮 四年上 敬出  
筆録 助松太三

### 季節と植物

为一時

一、あ、それじゃ、はじめましょう。

一、静かに礼一

四年生になつたね、おめでとう。四年生になつて、初めの勉強でしょう。今日と明日、季節と植物の話をやりまます。しつかりやりましょうね。

季節と植物の話をと話をした人、手を挙げてみよう。

一、せいに挙手一

よし、上がったね。そでだけなく、ずっと前の方まで、話をみた人、手を挙げてみよう。

一、ほとんどのせし一

残念だったね。静し本で、前の方まで、謙んてくる。と、と、と、勉強になるんだよ。これから家で読んでみましようね。

それじゃ、話の話を分けてあげるから、鉛筆で、しるしをつけて下さい。

六頁、前から二行目と三行目の間に線をすくつけなさい。ここは、本が分けると、つづきはながい、長からう二人で読むのですよ。

さ、次、そのところは、しつかり分けてはなさない、と、ろだよ。九頁のお話、まてたから、おしまの行の左に、しるしと線をつけなさい。さあつけたら、

一、は手伝つてもう二人で読む。うは、どうしても、初めにはならぬところだから、二人で読むをもう、すると四人で読むのね。今日は、誰から読んでくれるの。

一、挙手一

あ、あなたね、じゃあ、用意しましょう。

一、よむ(四人)

本をおきなさい。静し本を初めに読むのだから、だけ読むの話を、努力してきたね。家に帰ると、読んできなさい。また、よくできるようになる。今日も、そして明日も、毎日、少しずつやるよ、と、それもよくできようようになるのよ。

二、とく

一、黒板の右端をあげて、題目を板書一

ここは、季節と植物の勉強をするんだね。

一、黒板の左端の方に、大きな○を書きかた

これを一年として、季節で分けたら、いくつに分けるとか、か、か、か。

四つ

一、⊗と、四区分され一

さ、四つに名前をつけることが出来るか。誰か一つだけ言ってくれ。だから一つ言ってくれと、みんな思ひます。

春

春、春が出てきて、あと言えなかつたら、おかしよ。一つ言ってくれなさい。

冬

一、四等分した二まに、季節名を記入といわれる一

あ、何だろう。あなた言ってくれなさい。

秋

あ、と、残ったね。あなた思ひ言つて言ってくれなさい。

夏

一年を春夏秋冬と、四つに分けることができる。そして、今は何か。

冬

雪がちらついたりしたから、そう思えたか。あなた言つてみなさい。

春

みんさんは、大体今春だね、今は夏だね、今は秋だね、冬だね、ということが分かるだろう。植物は、季節が

変わったのが分かるだろうか。分からないだろうか。  
二つに一つ。どちらかきめてもらいます。分かるのが分かる  
ないだが。分からない人？

一 挙手なし  
分ると思う人。

一 大部分挙手  
分らない人だと思ひ人。

一 五人挙手  
分かる人だ。植物もちやんと、春だの夏だのが  
分るのだよ。分るからこそ、春になると、花をさかせ  
たり、秋になると実をつけたりするのでしよう。

植物でも、季節と植物をちやんと知るのですよ。  
そういう季節と植物の関係を言っているのは  
一と二のどちらだろうか。

この方

一 季節と植物の上に2と板書

それなら、一の方は何書いているの。一年の中の、ど  
こを書いているの。いつ季節にさく花のこと？

春

一 は春にさく花のことを書いている。二は季節と  
植物の関係を言っているんだね。

一 は作文の題としたら、春の花です。

一 春の花と板書

一 のところは、読めば分かるから、みなえにあげます。  
自分で調べてみれば、先生から、春の花は、これ  
これというものがあんだよと、教えられなくても、  
自分で調べよう。自分で本や何かを見て調  
べると、どうもおもしろいし、勉強のためになるのだよ。

一 はみなさんの領分です。いっしょにやるのは2です。  
この前半のところを開き、季節と植物の関  
係が書かれているのは、2のどきだろうか。八頁と七頁  
のどちらだと思ひか。八百六だと思ひ人。

一 大部分挙手

よし、八頁だよ。八頁の何行目から何行目までか。

この三行目から

この三行目から、どこまでかな。

おしまいがら、三行目

よし、分かったか。それじゃ、姿勢を正して、本を  
書いちゃいなさい。

三すむ

四かく

板書 一 春の花



二 季節

植物

それぞれの植物は、  
芽を出したり、花を  
開いたりするため、  
自分にちやうど合った  
温度や日光を  
ひつようとします。  
季節によって温度や  
日光の強さがちがいます  
から、植物は、それぞれ  
自分にちやうどのいい  
季節に育ち、花  
つけるわけです。

一 板書を終わらせ、子どもたちを見渡され

書き終った人も、書きおくれた人も、そこまでにして、  
みんな机の中にしませしませいなさい。

五すむ

六とく

季節のことは書き書であるのはどこ？

植物はそれぞれ自分に都合のよい季節に育ち花を

つけるわけだ。

それは植物のことだろう。あなたは。

季節によつて温度や日光の強さが違います。

うまい。その季節のことは書き書であるところ。

植物が季節からもらいたいものは何だろう？

### 温度

それから

### 日光

日光の強さをもらいたい。温度の強い日、温度

のうんと高いのをもらいたいのか。日光のうんと強い

ものをもらいたいのか。

### 温度や日光

自分にちよふどあつた温度や日光

自分になうと都合のよい温度をもらいたい。強す

ぎたり、弱すぎたり、そんな勝手なのをもらいた

いのではない。温度の高いのをもらいたいものもある。

温度の低いのをもらいたのもある。日光の強い

のをもらいたのもある。そして、自分にちよふど

良い季節に、育ちそく。それならば、春はよく

花は、秋からすんに、一足飛びに冬なんか

やめて、春になったら、花がさくと思ふか、さか

ないと思ふか。

秋にさく花は、夏をやめて、一足飛びに秋に

して、流石がさくであらうか、さかないのだらうか。

### 七よむ

一子どもたちの声が弱いのぞい

なんだ。そんな声で。四年生になったのだよ。し

かりした声なやれよ。

一一般と引きしまった声で読む

明日やるところは、2の後半に書である。

よく読んでいらつしやい。

### 第二時

一始鈴二分後、子ども入室

。それでは、本のワのところがあけておいて下さい。

一前に座するの子に

。あなた鉛筆をはさんでおいて下さい。

。それじゃ、始めましょう。

一静かに一札

。さあ、昨日帰して読んでみたか？

一ほとんど全讀終りよ

。よし、手を下して下さい。

。春の花を調べてみた人があるか。

一ほとんどなし

。時間がなくて調べて暇がなかったか。調べてみると

おもしろい。あと休みにするんだから、休みになつたら

調べてみるんやない。いろいろなことが分かるよ。おもしろい

んだよ。一はみんなにあげたんだから、みんなさんで

やしてくださいよ。だから、今日は之を読んで下さい。

今日はあつたかね。

### 読みます

。なると待て、書きて、ることだけを讀み下さい。讀み

ますねえ。書き書は書いてみる。書きてみるだけゆ、べり

読んで下さいよ。

### 二とく

。さ、本も読んで下さい。一生懸命読んでくれたね。

体をまっすんにしなさい。昨日勉強したことを思い

起こして下さい。一年を

一と言いはから、書き書か

。四に分けて、春夏、秋冬と名前をつけたね。その

季節の温度で名前をつけたら、春の温度は何だろう

？

。さ、さ、わかんないことあるか、春の温度だよ。

。さ、さ、さ、わかんないことあるか、春の温度だよ。

。さ、さ、さ、わかんないことあるか、春の温度だよ。

一⊗の中に「暖」と書き書かされる

そしたら、夏の温度は何だろう。

暑い

― 暑くも板書されながら―

春夏と聞いたのだから、次は秋を聞かせるに違ひ

秋は涼しい。

低い

― 一年と暑くしたり、暖かんだり、涼しくしたり、

― 涼と板書―

くても、暑くも好きな植物がある。ところが、  
この頃一関あたりへ行くと、春になたばかりの今、  
そんなところが荒れ、春に違ひない。えんどうは  
夏に実がでるので、春はなつたばかり  
なりに、どうしてえんどうなんのできるの。

温室をつかそ

温室、それを使って、植物に季節を間違えさ  
せるのだね。人間が頭をつかして、植物に季節を  
間違えさすようにしてやる。温室なんが使って、  
ほかほかと暖かしてやると、もう春になったんだ  
なあと思そ育そくる。そして、花をさかせなくてほ  
ならないと思うのだね。植物は人間より、早く  
暑くしてやると、おやまあ、もう夏になったな。早  
く実をつけるようにしてはならないと、いそい  
そ実をつけるようにするのだよ。

人間が植物をまづかして、季節を間違え  
させているところは、どこに書いてあるか。

人間が、実際に、育てるところだよ。実際  
に、まじったところ、そのことを書くのでない。天際にや  
っている、ことを書かなさい。

三よむ

四かく

日長暑暖  
涼寒短

ところで、人間は、温室や日よけなどを  
使って、温度や日光をかげんし、  
季節はづれの草花や作物を  
作るようになりました。

花屋さんには、ガラスでも、きくでも、  
ほとんど一年じゅうありますよ、  
トマトやきゅうりを冬や春に  
食べることもできます。

おそんより、縁が、斜めから、すうし、ほかほかと照  
らすからだよ。とても、弱い光だから、寒くないね。  
くもるとほかほかもなくなるから、ブルブルだね。植物  
は、寒いうちは、じつと待てる。春になつて暖かくな  
ると、この他の温度が丁度よい、これを持って来た  
んだよ、と言そ、ぐんぐん育そくるのだね。人は暑

雪が降る程、どうして寒いかな。どこからおそん  
より、縁が照らすのだからか。

真上からだよ。真上からおそんより、縁がじりじり照  
らすから、暑くも暑くも、ほかほか、暑くなる。

冬は、どこから照らすの。どうして冬は寒いんだらう。

雪が降る程、どうして寒いかな。どこからおそん  
より、縁が照らすのだからか。

おそんより、縁が、斜めから、すうし、ほかほかと照  
らすからだよ。とても、弱い光だから、寒くないね。  
くもるとほかほかもなくなるから、ブルブルだね。植物  
は、寒いうちは、じつと待てる。春になつて暖かくな  
ると、この他の温度が丁度よい、これを持って来た  
んだよ、と言そ、ぐんぐん育そくるのだね。人は暑

。まだの人もあるようですが、そこまでにして下さい。

本は開き、机の上にふせておきました。」

。小麦のことを書いた人、あるが、小麦は実稼  
はしたけれど、まだ実際にはやさいないね。時  
間があったら、そのことも、考えてみましょうね。

### 五よむ

六、とく

。この文章を二つに切ります。これは何でもないで  
しょう。

ーじ、とすどもたちを見ておられるー

。そんなこと、なんでもないよ。あはた言ってみなさい。

。とろでから、作物を作るよになりましてまで。

。よし、うまいね。ここで切ります。あと、こうち一つだが、

これも二つに切りたい。どこで切ったらいかが。

トマトやきゅうりを、冬や春に食べることもできます。

ー「ありませう」ところへしを書いたれー

。これはやめましょう。

ー「ありませう」を赤で消されるー

。すると、これは一年中ありますとなるね。

。さあ、ダリヤやキクを一口で言ったら何と言ったらが。

### 植物

。植物には遠くないが、こうちにはうまい、冬前があるよ。

### 草花

。そして、こうちは何と言ったらよいか。

ーおしまいの方を指されるー

やさいやくだもの

たべもの

### 作物

。だまそ季節を待っていたら、その季節になる

まで、花もさかないし、実もならない。とろが、人間は

頭を使って、植物をまごつかせて、季節の間

遠いせ、いづもせ化を見たり、作物を食べられ

るようにしたのね。

。そのためには、植物をまごつかせるため何を使うとよいか。

### 温室

。温室を使うと、何をまごつかせることになるのか。  
植物の好きな何をまごつかせるのか。

### 温度

。冬の寒い時でも温室の中で、ほかほかしてやると、

おお春がきたなあと思え、花をさかせたりする。

雪があっても、植物に目があるわけじゃないから、外は

冬だなんて分らない。

。もう一つほしいものがあつたよ。日よけは何をまごつかせるか。

### 冬

。温度と、もうひとつ好きなもの。

### 日光

。日光の強さをまごつかせる。うまいことを考えたも

んだね。

。もう一つまごつかせなくてはならない。今書いたところ

の前を見なさい。

ー伏せておいた本を見させるー

。何をまごつかせなくてはならないか。

### 冬の長さ

。冬の一番長いのは、いつか？

### 夏

。では一番短いのは、いつか？

？

。冬の真ん中、これが一番短い。もう少してお背の

体みが来るぞというあたりが、一番短い。

。この間のお彼岸の中日は、昼夜の長さが同じ。

。キクなんかは、ただ光の強さだけでは駄目。秋にな

って、日が短くなるのとこ。そればかりでなく、夏の

昼の長いところがないと、花がさかない。部屋の中に

電燈をつけて暑くすると、夏だ。日が長い

なと思えば、電燈を消して、涼しくしてやると、

おやもう秋になったと思えて、せ化をさかせる。

よと分からなかったのかも知れないが、これだけ種をあ

げたら、あと、ひとりだけで考えられれば分る。

昨日言っておいたが、暖かきところから一足飛びに涼としたり、涼きところから一足飛びに暑きたら、化がさいたりするだらうか。

さかない

一足飛びは歌目、だんだんにやらなくはならない。暑きを通り越して、急に涼しくても歌目をす。寒きを通り越しても育たない。だから、長い時間をかけるところを、なるべく、短い間に寒きをこしらえたり、暑きをこしらえたりして、まごつかせるのね。小麦のとうも、実験ではやそえるが、どうして本きたりやらないか考えておきなさいよ。

七、よむ

へ感想文

巖一六

助松太三

生料の壇を覗せてもらうと、その人の生活の練磨に思いを致します。思いも到りない生料の壇に接すると、その方の生活の厳しさに、肅然と致します。

この度の先生の御教壇は、当にそれでありました。単純化とはこれであるを示された、全く単純明瞭なお取扱いです。単純化の才一歩は、「」を捨てるな、お取扱いです。単純化の才一歩は、「」を切り

れたことです。示されればその通りです。「」を切り捨てられた時は敬愛をいたしました。単純化の才二は、「」を捨てるに任せて、全課の概観をやめたことです。

単純化の才三は、一時間目に、季節によりて育つ植物を、二時間目には、季節を作ることによそく、育つ植物を扱われたことです。

単純明瞭な骨格は、子供にかり易い道筋、考え方を留意されていることによつて、いよいよ単純明瞭に具体化されていきます。しかも、ところどころに自習の種を残し、いかれるので、将来もますます単純明瞭に、理合が深まることになりま

先ず、季節についてよくほぐしてやそ、次に植物

この関係は扱っておられます。始めに抽象的にかり易い季節を、子供にかり易くまとめるから、季節と植物の関係はよく分るのです。

一年間の季節を五分した後、季節と植物の關係の部分に焦点をすぼしておられます。これも子供にかり易い道筋を留意された一つです。特に二時間目の二とくで、暑、涼、寒、とおそろいをしてながら、再び一年間の季節の大観をされ概観の補足をしながら、

「六とく」に扱われる日照時間の長短の用意も、これであることは、全く補想の大きな扱いです。

日照時間の長短についてのお扱いは、粗の姿で出されています。二時間目の六とくの終りに始めて出しておられるのです。気温の高低、日照の強弱とこの日照時間の長短の關係については、一切ふられず、

ただ植物の關係におそののみ、出されています。組であること、かえってよく分るものではない。

植物は、季節を知ること、どうだらうか。

植物は季節が何をもらいたか。

季節を温度で名づけると。

季節を間違わせ、植物をまごつかせて、るところは、など、子供がたたと一枚になる間は難かしいのです。ただ一つの問によつて、子供の眼の輝きが変わるのです。

か、飛翔しもの、文を見る観念を述べる、おじろみようとすると、ところから生まれくるものは、なぞしよう。結局は、文を読みぬき、子供を観扱

よく分るだけではなく、自習の手がかりになるように、よく分らせることは、至難な扱いです。前に述べたように、日照時間の長短を、二時間目の終りに出されたこともその一つでしょう。くわしいことは、自分の

勉強が進むにつれて明らかになつてくるので、それがかえり、将来の興味の倍加することになります。

板書の御工夫もそれです。一時間目には、長い